

## 令和2年度 第2回草津市立少年センター運営委員会 会議録

■日 時：令和3年2月12日(金) 13時30分～15時05分

■場 所：草津市立少年センター会議室

■出席委員：

坂崎 晋也（草津警察署生活安全課課長）  
湯浅 敦（草津市青少年育成市民会議会長）  
清水 昭博（草津市少年補導委員会会長）  
棚橋 清子（草津市更生保護女性会会長）  
野口 正樹（草津市民生委員児童委員協議会児童福祉部会部会長）  
中野 宗城（草津保護区草津支部保護司会副会長）〈委員長〉  
高野 裕子（草津市中学校校長会代表草津中学校長）〈副委員長〉  
井尻 正志（草津市内高等学校代表草津養護学校長）  
栗津 晶子（公募委員） 藤岡 敏子（公募委員） 山本喜久子（公募委員）  
山下淳一郎（草津公共職業安定所統括職業指導官）

■欠席委員：

古谷 匠（草津市小学校校長会代表常盤小学校長）  
稲垣 里紗（草津市PTA連絡協議会会計 玉川中学校PTA副会長）  
井上 英明（草津市まちづくり協議会連合会 志津南学区まちづくり協議会）

■事務局：

杉山 泰之（草津市立少年センター・あすくる草津所長）  
中出 幸宏（同補導員） 末廣 明代（同専門員）  
埴岡 美江子（同無職少年対策指導員）

■報告：草津警察署 事務局

■傍聴者：なし

【事務局】今年度第2回の運営委員会をはじめさせていただきます。それでは、開会にあたり当少年センター所長がご挨拶させていただきます。

【所長】皆さん、こんにちは。コロナ禍の中、委員の皆様には当少年センターの運営および事業活動にご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

また、本日、第2回草津市立少年センター運営委員会を開催しましたところ、ご多用にもかかわらず、ご出席いただき重ねてお礼申し上げます。

現在、市民総合交流センター「キラリエ草津」が完成間近となり、当センターも5月6日からはキラリエ草津3階で執務することとなります。

さて、令和2年度も残り1か月余りとなりましたが、本年度は、コロナ禍により生活様式の変更を余儀なくされ、いまだ収束のめどが立たない先行き不透明な状況が続いております。昨日、国立成育医療研究センターによる小中高生のストレス調査結果が報道されま

した。高校生の30%にうつ症状が、全体の16%に自傷行為がみられたということです。

このような中、本年度の本センター事業活動は感染症拡大防止に努め、密閉・密集・密接の3密を避けるよう工夫し、規模を縮小したりしながら、できる限り実施しているところです。

この後の報告にもあるかと思いますが、不特定多数の児童生徒に関わっていただく少年補導委員会の定期の街頭巡回活動では、マスクを着用して距離を置いて声かけしたり、強調月間にはナイロン手袋を着用して啓発グッズを手渡したりしています。

小中学校に出向いての非行防止教室も2学期から開催しています。その時にも出向く人数を抑えたり、児童生徒を半数にして1学年を2回にわけて行ったり、ICT機器を活用してオンラインで複数の教室に配信したりするなど、密集しない工夫をしています。

こうした状況を踏まえたうえで、1年間の活動報告をもとに成果と課題を検証し、次年度の運営に向けて委員の皆さまからのご助言やご提言をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

**【事務局】**机上のマイクですが、今回会議録を作成するために設置したものです。発言時は心持ちマイクの方に向かってお願いします。また、今回の運営員会の様子につきましては少年センターだよりの3月号に掲載させていただくこともあるかと思しますので、写真を撮らせていただきますのでご了承ください。

それでは会議に入らせていただきたいと思います。本日の運営委員会につきましては、草津市の市民参加条例、草津市立少年センター運営委員会の傍聴要領の審議会等の公開等に基づき、委員会の公開、傍聴および議事録の公表の手続きをさせていただいています。本日の傍聴につきましてはゼロの状況です。それでは会議の進行につきましては、草津市立少年センター条例施行規則第9条の規定に基づきまして、委員長に議長をお願いいたします。

**【議長】**保護司会の中野でございます。あらかじめ資料がお配りされています。このレジメに従って会議を進めたいと思います。よろしくお願いいたします。初めに草津警察署から、令和2年の草津署管内の少年非行の現状について説明していただきます。

**【草津警察署】**草津警察署の坂崎です。日頃は青少年の健全育成にご協力賜りましてありがとうございます。今年も引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

それでは草津署管内の少年非行の状況を説明させていただきます。

少年非行の検挙補導状況ですが、刑法犯少年について、犯罪少年と触法少年は令和2年に合計で70人検挙しており、昨年は45人で25人増加しています。内訳は犯罪少年は59人おりまして、前年に比べて24人増加しています。触法少年は11人で、令和元年に比べると1人の増加となっています。

刑法犯少年の状況です。凶悪犯は強盗、強制性交等が11人、粗暴犯は暴行、傷害、脅迫・恐喝が13人、窃盗犯は万引き、オートバイ盗、自転車盗、その他が35人、占有離脱物横領が4人、その他が7人の検挙がありました。強盗については、ちょうど1年前の12月から1月にかけて、美人局による強盗で事件処理しており、日頃路上強盗があったというわけで

はありません。

次に令和元年に比べて増加しているのは傷害が4人増加、万引きが3人増加、オートバイ盗も5人増加、自転車盗が6人増加しており、占有離脱物横領についても3人増加しています。非行のはしりと言われる初発型非行で、万引き、オートバイ盗、自転車盗、占有離脱物横領が全体の中で31人の少年が捕まっています。令和元年に比べると17人増加しています。

不良行為の少年の状況については、草津警察署では288人の少年を補導しています。そのうち女子は86人でした。令和元年に比べると35人増加となっています。多いものでは喫煙が90人、深夜徘徊が137人と目立っています。この中で令和元年に比べると増加しているのが、深夜徘徊が11人増加、粗暴行為が16人の増加になっています。粗暴行為がどういった行為であるかということ、将来、犯罪につながりそうな行為で、火遊びであったり、エアガンを撃っていたり、少年同士の事件にならないようなけんかといったものをとらえています。後は家出、無断外泊ですが、10人いましたがこれも3人の増加になっています。

最近、少年が蟠集する場所ですが、今年の夏ごろはde愛ひろばが多かったのですが、最近は若干減っていて、エイスクエアが目立って多くなっています。草津署管内では非行の検挙、少年補導ともに増加しています。ただ、県下全体でいうと、全体的には減少しており、草津警察署管内で増加してしまっているという状況になっています。

草津警察署管内の少年非行の状況は以上です。

【議長】ありがとうございます。ただいま坂崎課長から、草津署管内の少年非行の現状について説明がありました。何か質問等がありましたら発言をお願いします。ないようですが、これからの事務局の説明も含めて後ほどでも結構です。それでは協議事項に入ります。

協議事項は2件

- ・草津市立少年センター下半期の業務活動状況について
- ・令和3年度活動計画

活動状況・活動計画併せて、お願いします。

【事務局】

## 少年センター

〔活動報告〕

少年補導委員会:街頭補導・街頭啓発活動

<活動の重点について> 見える活動:基本スタイル(帽子+ベスト)

- ・事前に各交番から情報を入手し、巡回時に役立てる。
- ・「声かけ」を大切に、市内小学生の書いたメッセージをポケットティッシュに入れて配布(コロナウイルス感染症の状況を踏まえて11月よりカイロと併せて配布再開:手袋着用、声掛け控える)

中学校の先生の参画（合同街頭補導の充実：6中学校）

高校生の参画（市内高校）：今年度は7月・11月の強調月間の街頭啓発活動中止

青少年立ち直り支援事業：就労体験協力企業の募集（現在41社）

〔成果〕

○上半期はコロナ禍により事業の中止が相次いだ、下半期は通常街頭補導（de 愛ひろばから草津駅周辺、エスクエア等）・少年補導委員会研修会（2月2日）・定例幹事会を実施し、活動を充実することができた。また、従来の南草津駅方面、イオンモール方面の通常街頭補導は青パトで対応した。

※青パト：青色回転灯を自動車に装着した自主防犯パトロール

○えふえむ草津を活用し、啓発活動が実施できた。（10月所長出演）

○相談活動（電話・面談）は、増加傾向にあり臨床心理士との面談日は超過密スケジュールが続いた。

〔課題〕

●14学区・区主催の街頭補導活動はコロナ禍により制約される中での実施となった。

●啓発教室は、少年補導委員への参加要請は中止して、開催した。

●就労体験協力企業は開拓を進めているが、少年が体験する機会は少なかった。（1社2名）

※キラリエ草津への移転（5月6日）に伴い、「あすくる農園」のスムーズな移行が課題である。

〔活動計画〕（コロナ禍での活動）

少年補導委員会活動の充実

幹事会の充実（全員が揃う）

通常街頭補導（センター主催）、随時街頭補導（各学区・区主催）の充実

啓発教室への参加

※青パトの充実（南草津駅・イオンモール・市内小中学校周辺等）

啓発活動の充実

啓発教室への参加（初発型非行防止、薬物乱用、情報モラル、防犯教室等）

（薬物標本の活用）

少年センターだより：～H27 4回 → H28～ 6回発行（ホームページにアップ）

（7月は全戸配布）

◎マスメディア（えふえむ草津など）を活用した啓発活動

啓発グッズの配布

中学校卒業を機に新たな旅立ちをする少年に様々な悩み事が起きた時の相談場所の一つとして少年センターの存在を再確認するグッズを作成し、配布。（7年目）

## あすくる

<通所状況>

人数：現在、27名の少年が登録・通所：定期（12名）、不定期（15名）

通所のきっかけ：関係機関からの紹介と相談

- ① 非行等で、学校より繋がる（家庭のネグレクト → 居場所作り）
- ② 警察で補導 → あすくるを紹介 → 学校と相談
- ③ 家裁の審判で「あすくる通所を遵守事項に」と言われる
- ④ 保護司との連携
- ⑤ 民生委員・児童委員や補導委員からの相談
- ⑥ 家庭児童相談室からの相談
- ⑦ 相談電話より

<活動内容：5つの支援プログラム>

- ・自分探し支援プログラム
- ・生活改善プログラム
- ・就学支援プログラム
- ・就労支援プログラム
- ・家庭支援プログラム

※青少年支援サポーター：13名登録（大学生4名含む）

→ いろんな大人が関わるのが大切。

[成果]

- あすくる草津の周知が少しずつできてきているため、関係機関、団体などから繋いでもらっている少年が増え、例年、年度末に近づくにつれ、いっぱいの状態である。
- 通所少年の居場所となっている。
- 大人が適切に関わることで、自尊感情が高くなり、自信がついていく。

[課題]

- 草津市内、栗東市内の少年が通所しているが、少年が増える傾向にあり、一人あたりの時間が短くなった。（昨年度までは一人2時間、今年度は1時間半）
- 移転に伴い、農園を使つての活動（栽培・調理など）に、できるだけ支障が出ないようにする。

## 無職少年支援活動

[活動報告]

少年の就学・就労支援

- ・無職少年3名

※事例紹介

・定時制・通信制高校の生徒 12 名

就労体験協力企業…現在 41 社登録

・就労体験 2 名 「最初はちょっと緊張したけど、一生懸命がんばった。しんどかったけど、やりがいがあった。」

「箱を作る作業でこんな作業があるんだなと思いました。良い経験になり楽しかったです。」

高校との連携…県内の 18 校を学校訪問（年間 2 回程度）

・中途退学の可能性のある生徒をセンターにつなげていただく。

・定時制・通信制高校の生徒のアルバイトを探す支援。


〔成果〕

○ハローワークの担当の方と事前に協議することや、関係機関の支援を得ることにより、本人の特性を理解・尊重しながら、継続して就労相談をすることができた。

○中学校で職場体験ができなかった少年も、協力企業で体験することができた。

○関係機関との連携

・ 中学、高校	・ ハローワーク	・ 発達支援センター	・ 市家庭児童相談室
・ 保護司	・ 臨床心理士	・ 働き・暮らし応援センター 'りらく'	
・ 滋賀障害者職業センター		・ 市障害福祉課	・ A型作業所
・ 人とくらしのサポートセンター			

 継続して少年と家族を支援する体制

●就労体験の推進

●定時制・通信制高校との連携

●発達障害や引きこもりの少年への支援

〔活動計画〕

○無職少年の就労・就学支援 ⇒ ハローワークと連携しながら継続した支援を行う。

○定時制・通信制高校在籍者のアルバイトを探す。

○就労体験協力企業 ⇒ 就労体験の推進と様々な職種の協力企業の開拓。

○高校との連携 ⇒ 定時制・通信制高校との連携の推進。

○関係機関との連携 ⇒ 継続した支援体制を作る。（特に福祉とのつながり）

【議長】協議案件について、質問等があれば。

【湯浅】草津警察署「少年非行のあらまし」で、刑法犯少年の件数は減ってきていると聞いていたが、増えてきたのはどうしてか。コロナの影響で、声掛け運動や啓発活動等ができていないのが原因か。生活安全課でどう分析されているのか。

【坂崎】増加の原因の検証はできていないが、同一少年が複数回しているのが今年が目立っている。オートバイ盗で同じ少年を複数回補導している。

【湯浅】①会社の産業医の話ではコロナ禍で在宅増 → ストレスが溜まる（特に主婦に）

→ 子どもに影響しているのか。②あすくるの成果で自尊感情が高くなり、自信がついた。  
③キラリエ草津へ移転後、通所少年がこれまで通り来てくれるか心配である。複合施設なのでいろんな人が集まる。決めつけてはいけませんが、他団体や市民の方が通所少年を見て、正義感から説教してしまわないか心配である。

【議長】今回は最後になるので、お一人おひとりに意見を伺っていききたい。センターへの意見・提言をお願いしたい。

【山下】少年センターからの連絡を受けてやっている。相談件数自体は多くない。また、登録してそれっきりの人もある。仕事は探されているが、人間関係もあり、辞めて次の仕事を探すのも多い。ハローワークを使わずに探している人、漠然と探しに来ている人、具体的な話にまでいっていない人もいる。

【井尻】中学校の特別支援学級から、特別支援学校ではなく高校へ進学する生徒が増えている。高校へのセンター的機能として、高校に在籍している発達障害の生徒への関わり等、学校訪問をして高校の先生と同じ目線で支援の在り方を考えている。草津養護学校では、全校生徒の8割が知的障害である。社会的・職業的支援企業で、企業就労含めて卒業後長く働き続けるためにどうしていくかを学校のテーマとしている。自己肯定感を育てることが一番大事な観点ではないかと職員の中で共通理解し、そのためには何が必要かを議論している。主体的に勤労・学習意欲を持たせられるか。行きつ戻りつで成果が上がっているわけではない。やらされているより、知らない間に早く時間が経ったなどと思わせられるような仕事の在り方を模索中。就労体験協力企業については、特別支援学校では県のHPに「仕事応援団」があり、企業が支援学校の生徒を応援するという事で登録している。発達障害や知的障害の生徒を支援する企業がある。

【粟津】委員会には4回目の参加で、少年センター・あすくるについて初めて知ることがあり、周りにも広めていきたい。子どもたちへの啓発により、利用が増えてきている。時間が足りない、場所も足りないということで、各中学校区に1つずつ、近くにあればと思う。17歳の少年の事例を聞いて、発達障害ということがこれまでにわかっていたのか。情報があれば、本人も早くに楽になっていたのではないか。

【藤岡】コロナ禍で休校になり、自宅でゲームをしたりして生き生きしていた子もいた。再開になり、来所少年への「よく来たな」という声掛けで、職員の思いが伝わっているのではないか。学校へのボランティア活動に行けていない。参観があると来校してくださいと言われるが、行けていなく、残念である。先生の言葉がうまく子どもに入っていかなかったり、先生と子どもの関係が見えてくることがある。コロナ禍で1年間我慢したことがマイナス面で心に残っていくのかなと心配。中学生が職場体験に来て生き生きとしていた。(保育園)職員として楽しみであり、職員も接しているが密を避けながらの関わりをした。自分がどんなことをしていけばよいか、考えていけないといけない。

【山本】一人の少年へのきめ細かい支援に感心させてもらっている。一人の目ではなく、支援サポーターや臨床心理士等いろんな大人の関わりがあり、保護者にとっても心強くあり

がたいのではないか。なぜだめなのかを突き詰め、生かしていける場、支援の場を探していく。あずくるの事業で助かりましたということ等を、広めていく方法があれば。

【議長】公募委員の方の意見は市民の代表という意味でも大切である。

【野口】児童福祉部会に所属している。民生委員は高齢者や生活困窮者への支援で、児童委員の活動は子育てサロンや登下校時の安全見守りがある。今は貧困もあるが児童虐待が深刻で、非行につながっていく部分があるのではないか。虐待を察知したら、専門機関につなぐ。母子家庭への訪問は難しく、形だけになり虐待の有無・把握は難しい。小学校で虐待がつかめるかが大切。SNSで悪い仲間につながっていくことがあり、規制できないか。

【議長】横のつながり・連携が大切。

【棚橋】あずくる農園を見学させてもらって、作物の栽培は、人を作る上で大切な取り組みである。子どもを虐待する親の成育歴が知りたい。朝顔の栽培やウサギの飼育は自己に対する感情を育てる。移転後も農園を大切にしてほしい。

【議長】移転後は屋上にできる。

【棚橋】河川公園（de 愛ひろば）は利用できないかと思う。

【清水】車を使つての移動ができないので、徒歩で巡回している。（コロナが）収まれば、車で移動して範囲を広くしていきたい。立ち直り支援・就職支援は御苦労ねがっている。息子が中2の職場体験で職場の人にいろいろ教えてもらってできたが、自分一人となると上手くいかない。自分の道は自分で決めている。現在大学生でリモートで授業を受けている。

【高野】コロナ禍で小中学校の行事や取組・事業を止めることはたやすい。判断と決断に悩む。With コロナで感染対策が当たり前になって、いかに工夫した取組が大切か。無駄なことをしてきたなという反省がある。遠方への出張などオンラインで済ませられることもあり、その分子どもへの対応に充てられる。

【議長】玉川小学校の学校長死去で子どもが命（生・死）について学び考えることを大切にされている。県の教職員のハラスメントが16.5%。子どもに関わる教師にハラスメントがある。仕事量や部活動で教師の負担が大きい。みんなの理解が大切。薬物依存症のセミナーでは本人と保護者が勉強する場があり、そういう学びも大切。中身の濃い意見交換になったのではないか。

【湯浅】知らないことは恥ずかしいことではない。

【所長】農園が移転で、屋上にできる。貸し会議室から活動が見えないように、目隠し板を設置している。近くの学校で借りることも検討する。キラリエ草津で知っている人に出会ったとき、少年がどう反応するのだが、外部階段の利用もする。活動中の他、前後の時間も配慮するので心配ない。

【議長】作物の成長過程を知ることは大切。近くの場所でよいところがあるということも参考に。

【事務局】閉会にあたり、副委員長からお願いします。

【高野】3つにまとめたい。①育てる：農園で農作物を育てることで心・自尊感情・自己肯



定感を育てる。居場所を作る。あすくる活動の軸 ②つなぐ：無職少年の支援で小中からの接続・専門家へ ③広げる：発信の方法、えふえむ草津。啓発ではグッズの工夫や仕方  
青少年の健全育成は大人みんなの願い。 センターへの支援・各団体への協力をお願いしたい。

**【事務局】** これで第2回運営委員会を終わります。